

密閉型コンポスト容器 使い方マニュアル

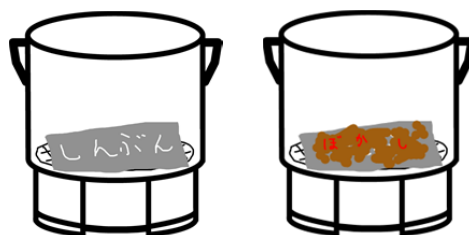
密閉型コンポスト容器【補助対象】（サイズ：120・150・180）

生ごみを密閉した容器で発酵させて良質な堆肥を作るコンポスト容器です。密閉した容器に生ごみを入れるため、虫の発生や悪臭を抑えることができます。また、屋内の使用もできるため気候に関係なく生ごみを処理することができます。容器を2つ用意し交互に使うと効率がいいです。

【使い方】

①コンポスト容器にぼかしを一握り入れる。

- ・容器の底に新聞紙を引いておくとよい。



②生ごみを投入する。

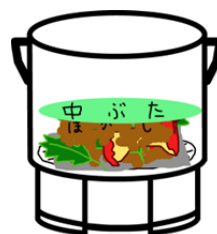
- ・生ごみはその日のうちに容器に入れること。
- ・生ごみを入れるたびに「ぼかし」を一握り（20～30g）ふりかける。
- ・しゃもじ等で「ぼかし」と生ごみを和えるように混ぜる。

※「ぼかし」はホームセンター等で購入してください。



③混ぜ終わったら中蓋をして、生ごみと空気が触れる面積を減らす。その後コンポスト容器の蓋をしっかりと閉める。

- ・不要な水分は、コンポストの下部のコックから抜き出す。この液体は「液肥」として使用することができる。液肥は腐りやすいので溜めないでその日のうちに使う。1000～2000倍に薄めて使用すること。またトイレ等に流しても良い。微生物の力で汚れを綺麗にすることができるとのこと。



④これをごみで容器が8分目になるまで繰り返す。

生ごみが溜まったらしっかり蓋をして直射日光の当たらない場所へ1～2週間置く。



⑤漬物のような匂いがすれば成功。密閉型コンポスト容器は分解するものではないので、生ごみはそのままの形で出てくる。これを「ぼかしあえ」という。

⑥「ぼかしあえ」を土へ投入する。

・畑の場合

- (1) うねの真ん中に深さ 20～30 cmの溝を掘る。
- (2) 「ぼかしあえ」を投入。4～5kg/1 m²程度
- (3) 土とよく混ぜる。
- (4) 土をしっかりとかぶせる。
- (5) 動物対策に雑草・枯れ草・シートなどをかぶせる。
- (6) 1 ヶ月後、種・苗を植える。

・庭の場合

- (1) 深さ 20～30 cmの穴を掘る。(木の根を避ける)
- (2) 穴に「ぼかしあえ」を入れ土とよく混ぜる。

・プランターの場合

- (1) 「ぼかしあえ」を土とよく混ぜる。
- (2) 新聞紙をかぶせ、虫除け、雨よけのビニールをかぶせ、しばる。
- (3) 1～3 日で発熱。かき混ぜ、ぬれた新聞紙は取り替える。
- (4) 10 日以上経ってから種まきや苗を植える。

【利点】

- ・生ごみを発酵させるため良い堆肥を作ることができます。
- ・虫の発生や悪臭を抑えることができます。
- ・屋内でも使用することができます。

【欠点】

- ・時間がかかります。
- ・密閉型容器でできた「ぼかしあえ」を土と混ぜる必要があります。
- ・ぼかしが必要なため、ランニングコストがかかります。
- ・生ごみを混ぜたり、発酵液を抜き取ったり毎日行う作業があります。